

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙 3:1～6 「上にあるものを求めよ」

[1-2] 「こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい」

キリストにあって新しく生まれた者とされた者は、新しい生き方をしていく必要がある。
ウエストミンスター小教理問答 問1：人の主な目的は何であるか。

答え：人の主な目的は神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

→ I コリント 10:31、詩篇 16:11、ハバクク 3:16~18、I テサロニケ 5:16

このことを人生の最高の目的とするクリスチャンはもはや地上の過ぎ去って行く事がらに心を奪われずに、上にあるもの、すなわち永遠に価値あることだけに関心をもつ者となる。

→ マタイ 6:19~21、ヨハネ 6:27 そのような生き方をパウロはここで勧めているのである。しかしこれはこの世からの逃避や厭世主義の勧めではない。クリスチャンとなった者はこの世において、キリストにある新しい生き方を示しつつ実際に生きていく必要がある。キリストは死よりの復活の後、天に昇られ、今は神の右に座を占めておられる。→ マタイ 26:64、ローマ 8:34

「右の座」とは力と権威の象徴であり、文字通りの場所という意味ではない。

[3-4] 「あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。私たちいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現れます」

キリストを信じて新しく生まれたクリスチャンのいのちはキリストとともに、神のうちに隠されている。

今クリスチャンもそうでない人も、この地上で同じように生き、同じように生活している。しかし、やがてキリストがすべての権威を持って、さばき主として地上に来られる再臨の時には今まで隠されていたキリスト者のいのちははっきりと現わされ、キリストの栄光にあずかり、すべての人にはっきりと認められ、栄光の姿に輝く者となる。4節の「私たちのいのちであるキリスト」とはクリスチャンにとって一番大切なものはイエス・キリストであるということの別の表現である。→ピリピ 1:21

そのようなわけで、私たちが求めるべきものは上にあるものであり、過ぎゆく地上のものに執着せず、永遠に価値あるものを思って生きるべきなのである。

[5-6] 「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。このようなことのために、神の怒りが下るのです」

キリストの十字架の贖いを信じるクリスチャンは罪に対して死んでおり、罪はもはやどのような法的権威も持たない。しかし、現実にはクリスチャンはこの世に生きており、なお残る古い肉の性質と戦わねばならない。そこでパウロはそのような地上のからだの諸部分を殺してしまいなさいと迫る。その古い肉の性質から出て来るものは、①不品行…性的不品行、不道徳。②汚れ…みだらなこと。不純で、あるべき正常な姿でないこと。③情欲…不品行や汚れ等の具体的行為の背景にある欲望。④悪い欲…③同様悪い行為に走らせる悪い欲望。⑤むさぼり…飽くことのない欲望。パウロはこのむさぼりがそのまま偶像礼拝であると言う。

偶像礼拝の本質は手に入れようとする欲望である。人は神から何かを得ようと願って偶像を造り、これを礼拝する。人は犠牲をささげ、供え物や金銭、礼拝などによって自分が願っているものを与えてくれるように神仏を説得できていると思っている。別の言い方をすれば、その全生活を何かを得たいという欲望にゆだねる人は、神の立つべき場所に神以外のものを置いていることになる。神以外に何かを重視しているならばそれは偶像礼拝となるのである。

これらは聖であり義である真の神のみこころにかなわないことなので、6節で言われているように、当然、神の怒りが下ることになる。

ではどうすればこの肉の欲を殺すことができるか。

①1~2節にあるように上にあるものを求め、地上のものを思わず、天にあるものを思う。

②肉ではなく聖霊によって歩めるように祈る。→ガラテヤ 5:16

③御霊によってからだの行いを殺す。→ローマ 8:13

肉欲は何度も何度もよみがえってくる。私たちはこの地上にある限りは肉との戦いは続く。それゆえ、御霊に満たされて歩み続け、そしてこの世のむなしいものに捕らわれずに上にあるものを求め続けることが私たちにとって最も大切で必要なことなのである。